

皆様、こんにちは。本光寺にいる「木魚のぼっくん」です。今回も「ぴかりん住職」と共に色々なことを考えたり、教えていただいたりしていきますので、よろしく願いいたします。では、恒例によりご住職様をお呼びしたいと思います。ぴかりん住職さまあああああ



こんにちは、ぼっくん。
今回も色々なことを教えてみたいと思います。
さて、ぼっくんの名前はもう一度言ってほしいな。

え、僕の名前ですか？知っているでしょう。
「木魚のぼっくん」ですよ。ちょっと何故なんですか……



ごめんどめんど。別に意地悪をしたわけではないよ。
木魚のぼっくだよね。では質問です。
木魚っていったい何をやるものか考えたことはあるかな？

木魚、もくぎよ……もくぎよ……もくぎよ……



ぼっくん。あんまり頭を悩ませないで欲しいな。
まず木魚は木の魚と言う漢字を書くよね。魚って何だろうね？

木でできているから木魚の木はわかるけど、
なぜ魚と言う字を書くのですか？



まず、何故木魚があるのかを簡単に説明するね。
本光寺は本堂があまり大きくないからそんなことはないのだけれど、大きなお寺で何人も僧侶が一齐にお経を唱えとお経が徐々にずれてきてしまうことがあるんだよ。
だから、みんなのお経をそろえるために木魚が必要になってくるんだ。
つまり木魚は、読経をするときに打ち鳴らすことで、みんなのお経を合わせる大事なツールなのです。
また、厳しい修行中に眠気覚ましともいわれています。
魚の漢字を使うのは、眠るとき目を閉じない魚が眠らないものだと言われています。

そうなんですか。ほかには意味はないのですか？



リズムをとる楽器と言う言われ方もあるんだよ。
音楽にも取り入れられていることもあるくらいだよ。
やたらに叩けばよいというものでもなくて、お経の邪魔にならないように叩いているんだ。

色々な意味があるのですね。
単純に僕の名前にもそのような深い意味があるとは思いませんでした。まだまだ勉強不足ですね。



勉強不足に気づくことが大切なんだよ。
知らなければそのままになってしまっていたことが、そのことに気づく→勉強・努力する→改善する→成長につながる。
ぼっくんもいい勉強をしたんじゃないかな？
本光寺も日々進化しているように思っています。
今、朝参り会をライブ配信をしています。毎日が、勉強です。人間、満足したらその時成長は止まってしまう。私も日々精進し一生懸命頑張っていくので、ぼっくんも一緒に頑張りましょうね。

ご住職様。ありがとうございました。今後とも頑張ります。
皆さんもよろしく願いいたします。



はひふへ 本光寺

ほんこうじ

第22号

令和3年5月発行

西暦 2021
仏暦 2564
祖暦 799
皇暦 2681

尾藤住職より

コロナ禍のなか、本光寺も三密を避けた対策を講じてきました。本年より、従来通り、大祭を含めた行事を復活することとしました。しっかりコロナ対策をした上での開催になりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。また、今回は「永代供養墓」の実際の体験談を掲載させていただきます。ご参考になれば幸いです。

ご住職に

き

た

き

い

記者 (以下 記) さて、本光寺の大祭に向けた「はひふへ本光寺」について、現在の本光寺の状況やネット配信など（朝参り会や夕参り会など）を紹介しながら、住職にお聞きしたいと思います。

記者「以下 記」個人的なことをいうのもなんですが、先日私の叔母の逝去の際の「永代供養」の法要では、ご住職に大変お世話になりました。「永代供養」に関しては、別ページにて少しお聞きしていきますが、ご住職がその時に話されていた、今後は本光寺でも「永代供養」をご説明していくことが必要になっていくとのことでした。一言だけ「永代供養」のお考えを教えてください。

住職 「以下 住」

本光寺には、お寺ですから代々伝わるお墓を守っている檀家さんがいらっしゃいます。昨今の社会の変化で核家族化や後継者不足などいろいろな要因が発生しています。お墓を守るといふ観念だけではなく、将来、後に残る家族に負担をさせたくない、子供が遠方でお墓を守れないなどの問題が生じてきました。本光寺では、そのような皆様の声を解決するために「永代供養」をご紹介します。先日、記者さんが経験されたように、「永代供養」は今の社会では一般的になりつつあります。これも時代の流れの一部ではないでしょうか。

記：

そうですね。さて、今回は「月遅れ大祭」の事も少し話させていただければと思います。皆さまご承知の通り、昨年は、大祭などを簡略化や時短化し、物足りなさを感じた一年ではなかったでしょうか。ご住職から、一言お願いいたします。

住：コロナという未曾有の出来事に対応すべ

く、本光寺では、さまざまなコロナ対策を講じてきました。駐車場から境内に至るまで、皆様にはマスクの着用をお願いしたり、御朱印は書置きにさせていただいたりしてきました。本年は、コロナ対策を十分対応したうえで、全ての大祭を通常通りにさせていただくことになりました。皆様の健康を配慮させていただいた上で、本光寺の大祭を行います。

記：現在、ライブ配信をユーチューブで行っていますね。朝参り会や夕参り会などを配信していますが、先日 200 回を迎えた「朝参り会」についてお聞きしたいともいます。

私も昨年来参加させていただいております。が、初期から比べると成長しているのがわかります。変化をしておりました。カメラアングルや内容もいろいろ進化していくので毎日が楽しみです。ご住職のご意見やエピソードなどを教えていただければと思います。

住：いつも御参詣いただき、ありがとうございます。皆様の声や私の考えもあり、朝参り会は日々進化しています。始めた当初は、五里霧中のなかで始めましたが、さまざまな方々のアドバイスなどを活かし、現在の形になってきております。冒頭、御参詣という言葉を使いましたが、御参拝との違いなども朝参り会でご説明させていただいたこともあります。今は、大体の形が固まってきていますが、まだまだ、私も考え、皆様の声に応えられるように、日々精進していきます。

現在、私に対しての質問や悩み相談も受け付けておりますので、是非ご参加ください。

ただ、一言お断りさせていただきますが、私もまだまだ修行中の身です。私の考え方や記憶の中の話しが全て正しいという事ではない場合もあります。皆様の参考になさっていたらと思っております。

記：ありがとうございます。今後も、本光寺を紹介させていただきますの、よろしくお願いいたします。

住：ありがとうございました。合掌。

キャラクター紹介



びかりん住職

ぼっくんのいるお寺の住職。



木魚のぼっくん

お寺にいる木魚の化身。頭をたたいて「ぼくぼく」と鳴らしている。



しんくん

お寺で「ぼっくん」「ぶつぞう」達と出会い仲良くなった。



ゆういちさん

しんくんのお父さん。
▶次回、登場します！

寺務員のひとり言

いつもご参詣ありがとうございます。

(佐々木) 春を迎え、本光寺境内にも次々といろいろな花が咲き始めています。時期の短いものもありますので、ご参詣の際には少しのんびりお花を眺めてみてはいかがでしょうか。

(根本) お釈迦様は花々にも祝福されてお生まれになったのですね。梨の花も白くてとてもキレイですよ。今年は豊作となりますように。

(松本) 本光寺にお参りにいらした際は、ぜひ五行のパワースポットも一緒にお参りしていただき、たくさんのご利益を受け取ってお帰り下さい。まだまだ気が抜けない日々が続いておりますので、くれぐれもご自愛くださいませ。

本光寺から皆様へお願い

① デジタル化

日本政府は令和3年(2021年)9月にデジタル庁の発足を目指しています。

本光寺では率先して平成26年(2014年)よりデジタル化を推進してきました。

法事など各種お申込みはホームページからできます。紙の申込書に手書きするよりホームページのほうが大変に便利です。お困りの点、ご不明な点がございましたらお気軽にお問い合わせください。

② 数珠の着用

本光寺では、令和3年よりご希望の方に(檀家様・参拝の方問わず)本堂にて御本尊を直接ご覧できるようにさせていただきます。その時には、数珠の着用をお願いいたします。数珠のない方は貸与いたします。本堂には、御本尊が勧請されているので、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

実録「永代供養墓 やすらぎ」

令和3年2月7日の昼、私の携帯に見知らぬ番号から着信があった。間違い電話かなと思いつつ電話を取ると電話口の声は年配の女性の声

「〇〇〇〇さんですか、私、F（叔母の名前）の大家のMと言います。実はFさんに連絡が取れなかったので今日合鍵で入ったら倒れていて・・・今、警察を呼んでいますので」叔母は一人暮らし、しかも独身、私の母（高齢者）が唯一の姉妹、当然身内とも付き合いがない。

警察から電話があり、1月の下旬ごろ、病死したとのこと。

これからどうしよう。

叔母は以前から、亡くなった時は直葬をしてほしい（火葬場に直接運んでほしい）と言っていたが、何年か前に会った時「それでは寂しいから、知り合いのお寺で永代供養してあげようか。ご住職様に聞いてみるよ」と話し、本光寺のご住職様に相談をさせていただいたことがあった。ご住職様の回答は「Fさんが他のお寺の檀家さんでなければ、本光寺にゆかりのない方でも

永代供養を受け付けますよ。記者さんのように、ゆかりのある方なら、本光寺の供養を信頼してくださっていることなので、住職の私としては大変に嬉しいかぎりです。ありがとうございます」と言っていた。

叔母にもその旨を伝え、叔母は安心して喜んでいた。

人が亡くなることに慣れていない私は、ご住職に相談をしなければならぬと思い連絡しました。ご住職は、私の話を覚えていただいており「この度はご愁傷さまでした。永代供養に関しては、永代供養の担当がいるので、その方と一度話してみてください」と言われ、指定の日に本光寺へ・・・

永代供養の担当の方から本光寺の永代供養墓「やすらぎ」の説明を受け、納骨の日が決まりました。

永代供養の担当の方も懇切丁寧に説明をしていただき、慣れていない私でもよく理解ができ、すごく安心して帰路についたのでした。

叔母を荼毘にふし、永代供養墓に納骨の日、予定より少し早めに本光寺に行くと、いつも取材でお伺いしていた時と違い、受付の寺務員の方々（顔見知りなんだけど）も神妙な面持ちで接してくれました。

私には、いつものイメージしかなく、簡単に事が済むと思っていました（これが後々後悔することになる）

永代供養墓の担当の方から葬儀の説明を受け、いざ本堂へ・・・あれ、いつもと雰囲気が違うぞ・・・

ご住職の入場、座って合掌と言われましたが、思わず立って一礼し、お迎え、ご住職着座、私も着座を進められる。正面には叔母の遺骨と写真。葬儀が始まりました。朝参り会でいつも慣れているはずのご住職の進行・・・あれ、勧請文もいつもと違う・・・あ あ あ まずい。

読経、焼香などの流れが終わり、葬儀が終了しました。終了後、ご住職の法話が・・・

法話もこれほど丁寧に話しをしていただけるのかと思います、本光寺の永代供養は、納骨するだけでなく、懇切丁寧そして何よりもご住職の気持ちのこもった葬儀供養であるように感じました。

今、叔母は永代供養墓「やすらぎ」の中で、静かに眠っていると思います。毎日、ご住職が供養の読経をして頂いているのを拝聴しながら、今日も私の一日が始まるのでした。

ありがとうございました。本光寺とご縁があって、本当に良かったです。

これをお読みの皆さま、永代供養墓等の相談は、体が元気で自由に動けるうちに、そして早めに行うことが、いざと言うときに安心です。是非、本光寺にご相談してみてください。

本光寺記者

